

## OTC薬、プライマリケアを対象とする「薬剤師の臨床判断ワークショップ2016」対象症候「腹痛」(第8回)及び「咳・呼吸困難」(第9回)報告書

日本アプライド・セラピューティクス学会 OTC 検討委員会

### 【開催目的】

地域におけるプライマリケアの重要な担い手である薬剤師が、来局者の病態を反映する情報や所見を自ら収集して疾患を推測し、適切な対処法を提案・実践するために、臨床判断能力に焦点を当て、薬局にしばしば来局する「腹痛」や「咳・呼吸困難」を訴える来局者を例に「効果的な情報収集と疾患の推測(症候からの鑑別)」さらに「疾患の重症度に応じた適切な対処法の提案と実践(トリアージ)」の2つのプロセスについて、簡単な演習とロールプレイを交えた参加型セミナーの形で習得することを目的とした。

### 【実施概要】

#### ① OTC薬、プライマリケアを対象とする「薬剤師の臨床判断ワークショップ2016」対象症候『腹痛』(第8回)

##### アドバンスト編

開催日時: 2016年7月23日(土) 15:00~17:30 (受付開始 14:30)

開催場所: 仙台・ベルエア会館(宮城県・仙台市)

参加人数: 9名

企画: 坂口真弓 先生(みどり薬局、浅草薬剤師会 会長、東京薬科大学客員教授)

日本アプライド・セラピューティクス学会 OTC 検討委員会

概要: 「腹痛」に対する OTC 薬販売方法、選び方、勧め方

##### 入門編

開催日時: 2016年7月24日(日) 9:00~18:00 (受付開始 8:30)

開催場所: 東京エレクトロンホール宮城(宮城県・仙台市)

参加人数: 13名(プリセプター2名)

企画: 木内祐二 先生(昭和大学薬学部)、狭間研至 先生(ファルメディコ(株))

日本アプライド・セラピューティクス学会 OTC 検討委員会

概要: 1) 「腹痛」に対する臨床判断

患者からの情報収集と疾患の鑑別、患者に対するトリアージのプラン作成

— グループ討議とロールプレイを中心に —

2) フィジカルアセスメント

基本的なバイタルサインの測定方法 — 聴診、血圧測定などの実習 —

#### ② OTC薬、プライマリケアを対象とする「薬剤師の臨床判断ワークショップ2016」対象症候『咳・呼吸困難』(第9回)

##### アドバンスト編

開催日時: 2016年10月29日(土) 15:00~17:30 (受付開始 14:30)

開催場所：昭和大学 旗の台キャンパス（東京都・品川区）

参加人数：9名

企画：坂口真弓 先生（みどり薬局、浅草薬剤師会 会長、東京薬科大学客員教授）

日本アプライド・セラピューティクス学会 OTC 検討委員会

概要：「咳・呼吸困難」に対する OTC 薬販売方法、選び方、勧め方

### 入門編

開催日時：2016年10月30日（日）9：00～18：00（受付開始 8：30）

開催場所：昭和大学 旗の台キャンパス（東京都・品川区）

参加人数：19名（プリセプター2名）

企画：木内祐二 先生（昭和大学薬学部）、狭間研至 先生（ファルメディコ(株)）

日本アプライド・セラピューティクス学会 OTC 検討委員会

概要：1）「咳・呼吸困難」に対する臨床判断

患者からの情報収集と疾患の鑑別、患者に対するトリアージのプラン作成

— グループ討議とロールプレイを中心に —

2）フィジカルアセスメント

基本的なバイタルサインの測定方法 — 聴診、血圧測定などの実習 —

### 【今後の課題】

運営や WS の進め方等、参加者には好評な WS であったが、参加者の募集に関して、非常に厳しい状況であり、特に 第8回 は地方開催で大学施設が使用不可であったため、会計における負担額増となった。今後、他の類似の WS との差別化等、工夫が必須と言える。

## 【印象記】(提出者のみ)

### ① OTC 薬、プライマリケアを対象とする「薬剤師の臨床判断ワークショップ 2016」対象症候『腹痛』 (第 8 回)

薬剤師の臨床判断ワークショップ 2016 「腹痛」印象記

堀内 栄志

まず、「腹痛」「プライマリケア」この二つの単語を聞いて、OTC の勧め方に関するワークショップなのではないかと考えたのは私だけではないはず。

最初、何も勉強する前のロールプレイに薬剤師役で選ばれた私だが、うまく薬を選んであげられなかった。この日が終わるころには少しは上手くできるだろうと考えていた。しかし全く違っていた。

「腹痛」から連想できる病気を上げていくトレーニングを行った。これがなかなか難しい。グループで知恵を出し合っ、何とか形にできたが、アニサキス、イレウス、肝疾患までさまざまな要因が挙げられた。

次にフィジカルアセスメントの実習。血圧と脈の測り方を教わり、グループで実践する。血圧は以前に測定実習の機会に恵まれたが、慣れが必要な作業であることに変わりはない。スムーズにできれば、在宅の現場など、活用の機会は多くあるスキルなので、効果的に医師の手助けができる状況も今後生まれてくるだろう。

次のグループワークでは、先に挙げた疾患を使い、アルゴリズムを作る作業を行った。仲間と相談しながら各自疾患の特徴をあげていき、アルゴリズムが完成した。ここまでくると、最初に行ったロールプレイの真意が見えてきた。OTC を勧めるのが目的ではなく、兆候を見抜き、的確に医師にバトンパスするスキルなのだ気づいたとき、少し悔しかったが、この仕事が今後薬剤師に求められ、もしくは求められてきたものだと実感した。

最後にもう一度ロールプレイを行った。各班ともに、「腹痛」の訴えからの的確に症状を判断し、対応していた。治らなかつたら医者に行くように伝えるところから一歩も二歩も進んだケアをまさに実施していた。それは、相談に来た方への従来の一期一会の対応から、もっと先の世界を見ているように思えた。

今後もこのワークショップに参加し、さらなる理解を深めていきたい。薬学教育もシフトしていく中、名ばかりベテランはもう不要。と言われるであろう近い未来に向けて、しっかりと足をつけて働いていきたいと思う。

印象記

スタイル薬局 平山 智宏

私自身、木内祐二先生の臨床判断ワークショップは今回で 4 度目（他学会主催含め）の参加でした。講義の中でもお話されておりましたが、やはり私自身は疾患から症状を考える、もしくは処方内容から疾患を推測するというプロセスで、日常の業務を行っていることが多いように感じます。今回 4 回目の参加ではありましたが、症状から疾患を挙げるのは難しいなと感じました。腹痛と言っても患者個々に表現は異なりますし、正確に判断することは難しいのだらうと思います。その中で、LQTSFA を用いて情報を整理することである程度の絞り込みが可能であり、トリーアージブランまでを疑似体験することが出来ました。OTC を取り扱う上では、とても参考になるものでした。

また、狭間研至先生によるフィジカルアセスメントについては手技と目的の再確認をすることが出来ました。特に在宅医療の現場ではバイタルサインが関わるスタッフの共通言語として重要であることを感じています。チームとして、目標・関心・リズムの共有というのは、まさに現在の薬剤師が『どうもチームに馴染めない』と感じてしまう原因なんだなあと感じました。

現在のすぐに医院・病院へと受診することが出来る環境は国際的に見てもとても素晴らしい仕組みかもしれませんが、人とお金が十分ではない今の医療環境においては薬局の果たすべき役割はとても大きいと感じます。カウンターで仕事をしていても、この程度なら OTC で対応可能だなと感じる事例は毎日のように遭遇します。以前は当たり前だったファーストアクセスとしての機能を取り戻すことが必要だと感じます。そのためには、今回のワークショップで学んだ臨床判断の能力が重要になるのだと感じています。

今回のワークショップの内容と同等の講義を受けた学生が薬剤師として臨床現場に登場することはとても楽しみである一方、危機感も感じます。保険薬局での長期実習を終えて、がっかりしたという学生がいると聞くことがあります。まさに現場が変わらないといけないことだと思います。まずは自分、そして職場、地域へと変化が生まれるように今後も活動していきます。

## 印象記

山口県防府市 家本薬局 家本 亜希子

今回の腹痛 WS の申し込みの際、アドバンスコースの内容も気になり、当日の移動でも間に合う日程であったため申し込みました。入門コースを一度しか受講していなくても参加できるのなら是非！と意気込み半分、緊張半分だったのが、終わる頃には、自分の粗雑さが露わになり、帰りたくなるくらい反省しました。改めて資料を見ると、わかりやすく、濃い内容であったと思います。

まずは薬局での OTC 薬販売に関する法律を中心とした説明がありました。セルフメディケーション税制・対象製品に表示される識別マークなど恥ずかしながら初めて知った内容、OTC 薬の基礎知識から販売まで濃い内容でした。県内の健康サポート薬局関連の研修会に参加できなくて気持ちが緩んでいたのも、引き締められました。

その後は、OTC 薬の胃腸薬を事例ごとに選ぶグループワークでした。アプセラ薬局には 15 種類の胃腸薬があり、在庫医薬品の特徴を表で分類していきます。普段の業務にこれがあれば助かるなど思える資料が出来上がりとても贅沢な気分でした。本来なら白紙の段階から作成していくべきところを、短時間で整理できるように資料がつくられていたのも、本当に贅沢だなと思いました。

そして最後には、来局者から情報を聞き出し対応しながら OTC 薬を選び販売するワークがあり、来局者・薬剤師・評価者に分かれて行ないました。私は薬剤師担当になったので、普段通りの感じで対応してしまいました。OTC 販売を評価されることなく業務をしてきたので、今回細かく評価されて自分の粗雑さを痛感しました。次回も都合がつけば、入門コースもアドバンスコースも参加したいと思っています。ご指導いただいた先生方、ありがとうございました。

以上